

【都市と美術研究所】2025 年 1 月 28 日 発表要旨

その光に色を見る ―光の当たってこなかった女性作家の研究をもとに―

Spectrum of Vivid Moments – Research on Women Artists who have been
Forgotten by the Official History of Japanese Art

流 麻二果（現代アーティスト）

Manika Nagare

Contemporary Artist

日本語での「色」を油彩で表現すべく、多層に重ねることでの色彩表現に挑んでいる流麻二果は、2018 年のポーラ美術館アトリウムギャラリーでの個展【色を追う】でポーラ美術館所蔵の印象派絵画を色で追体験するというシリーズ『色の跡』を手がけた。

2020 年の練馬区立美術館での展覧会【再構築 Re Construction】で、大正・昭和初期に活躍した松岡映丘の妻、松岡静野の作品と出会ったのをきっかけに、女性であるから故に創作を続けることや正当に評価されることが難しかった作家の研究を始め、日本美術史の中で抜け落ちてきた女性作家を色彩で辿る作品『女性作家の色の跡』へと発展させている。

2025 年 5 月まで開催中のポーラ美術館の企画展【カラーズ - 色の秘密にせまる 印象派から現代アートへ - 】では、このシリーズを発展させた新作『色の轍 Track of Colors』や、昭和初期に活動した文人画家、波多野華涯を取り上げた『色の跡』を発表中である。これらの展示作品を中心に、流がこれまで取り組んできた女性作家の研究と制作を発表する。

色彩を通じて絵画における空間性にも積極的に取り組んできた流は、港区立麻布図書館をはじめとしたパブリックアートや色彩監修を通しての建築とのコラボレーションなども多く手がけている。会場全体を風景画と見立ててインスタレーション化する展覧会や、現在の日本の色を探るワークショップの成果展示など、多様な空間への取り組みも【都市と美術】に関わるトピックとして今回紹介したい。

略歴

1975 年、大阪府生まれ、香川県育ち。

女子美術大学芸術学部絵画科洋画専攻卒。2002 年文化庁新進芸術家在外研修員(アメリカ)、2004 年ポーラ美術振興財団在外研修員(アメリカ・トルコ)。

パブリックコレクションに高松市美術館、練馬区立美術館、Jordan Schnitzer Museum of Art(アメリカ)、University of Michigan Museum of Art(アメリカ)、Kocaeli University Museum (トルコ)など。